

部会長巻頭言 ～部会継続審査に臨んで～

部会長を拝命してはやくも2年が終わろうとしております。任期中の粒子・流体プロセス部会の様々な行事に関しまして、有意義に進められたことは、ひとえに皆様のご協力あつてのことかと存じます。改めて、ご尽力感謝いたします。



さて、化学工学会本部による部会継続審査が一斉に開始されました。継続願いは先般提出させていただきましたが、次年度の初頭にかけて、部会評価に関する様々な資料を収集する必要があります。特に各分科会幹事の方には、お手数をおかけすることとなるかと存じますが、各分科会活動が活発であるため、本部会に関しては、高い評価を得られるものと存じます。

また2019年にはAPCChEが北海道で開催されます。その年度には秋季大会がなくなりますが、一方でAPCChE内で粒子・流体プロセス部会独自のオーガナイズドセッションを組むこととなります。オーガナイズドセッションでは、海外の研究者との共同セッションを組む必要があるため、次年度には執行部の強いリーダーシップが求められます。特に本部会は最大部会ですので、APCChEでは中心的役割を果たすことになるかと思っておりますので、部会の皆様にはより一層のご協力を賜りたいと存じます。

また、部会独自の国際会議として、2018年にはプロセス強化に関する国際ワークショップ(IWPI)が、台湾で開催されます。本ワークショップは本部会が立ち上げた国際ワークショップであり、3回日本で開催したのち、2012年に韓国ソウルで、2016年に英国マンチェスターで成功裏に開催されました。本IWPIに関しても、皆様のご協力を賜りたいと存じます。

化学工学会本部では部会横断型の研究会を立ち上げる企画もあり、今後様々に変貌していく学会組織の中で、皆様のご貴重なご意見をいただき、本部会を活性化できればと考えております。今後も益々のご協力をお願いします。

(部会長・鈴木洋(神戸大学教授))

2017年度 秋季大会部会幹事会報告

2017年9月20日(水) 12:00-12:50

化学工学会第49回秋季大会 AD会場

議事録は部会のウェブページを参照ください。

出席者(順不同、敬称略):鈴木, 後藤, 太田, 山本, 松隈, 庄野, 岩田, 加納, 谷口, 酒井, 瀬戸, 大村, 坂倉, 鷺見, 菰田, 日出間, 立元雄治(流動層分科会代理出席:静岡大学)

- 1 前回幹事会議事録の確認(部会長・鈴木)
- 2 部会長会議議事録の報告(部会長・鈴木)
 - ・部会長, 副部会長, 部会幹事・監事の任期に関する規約の改訂についての報告
- 3 部会継続審査に関する依頼(部会長・鈴木)

化学工学会本部で、部会継続審査を行うことが決定された。これに伴い、部会継続審査に関する以下の書類をとりまとめ、提出の必要がある。

 - ・前回の継続審査時の考察に対する評価
 - ・専門分野で果たした貢献の評価
 - ・学会に果たした貢献の評価
 - ・将来展望
 - ・その他、特筆すべき事項
 - ・前回申請以降の役員名簿
- 4 代議員について(部会長・鈴木)
 - ・代議員の選出。
- 5 部会 CT 賞(岩田)

気液固分科会で開催したMMPE2017での、運営および日本側のキーノートレクチャーへの貢献に関して、千葉大学・山田真澄先生の受賞が決まった。
- 6 名誉会員について(部会長・鈴木)
 - ・名誉会員推薦の際の、役職1年あたりの点数について報告。
- 7 会計について(菰田)
 - ・H27年度年会とH28年度秋季大会の還付金を含む原資の分科会分配案について説明。
- 8 行事開催の手続きについて(日出間)

・本部より依頼のあった、行事主催共催等規定に関する書類の提出に関して説明。

9 部会セミナーの内規について(後藤)

・H22年3月発行の「粒子・流体プロセス部会セミナー内規」の破棄が承認された。

10 次回の部会セミナーについて(後藤)

・開催日時に関する提案。→3/13PMに開催

11 部会賞について(太田)

・プレゼンテーション賞(学生対象)の受賞数を多くする提案。

12 若手・女性育成プロジェクトについて(山本)

・若手研究者・技術者を対象とした工場見学および交流会に関する計画について報告。

12 IWPIについて(大村)

次回のIWPI(2018年11月7-8日@台湾)に関して、開催場所の候補地や、Keynoteの講演者について報告。

13 部会規約について(部会長・鈴木)

・実態に合わせて次回(2018.3)の総会で規約改正を提案予定。改正点は以下である。
・幹事会における入退会報告を削除。
・本部規定の変更に伴い、役員の任期の改訂
・本部への上納金は「本部の求めに応じて」徴収することに変更。
・分科会の行事は、分科会主催行事・部会名併記を原則とする。

14 その他

・気液固分科会、流動層分科会から、セミナー開催のお知らせ。

(事務局・菰田悦之、日出間 るり)

第49回秋季大会セッション報告

【SY-52. <気泡・液滴・微粒子分散工学 2017】

気泡・液滴・微粒子分散工学分科会主催によるセッション「気泡・液滴・微粒子分散工学 2017」が、第49回秋季大会の初日(20日)および二日目(21日)の午前中に行われました。展望講演2件、優秀論文賞に関する講演1件、一般講演21件の合計24件の発表があり活発な議論が行われました。初日の展望講演は「Scale up of Heat Transfer in Granular Flows」と題して Rutgers

UniversityのBenjamin Glasser先生に伝熱を考慮したDEMの最新の研究を英語にてご講演頂きました。また、二日目の展望講演は「持続可能社会の実現に向けた革新的化学システム設計」と題して、東京大学生産技術研究所・堤 敦司先生に熱交換モジュールにおけるエクセルギー損失に着目した熱交換システムの設計に関してご講演を頂きました。優秀論文賞の受賞講演は、神戸製鋼所の清水努氏による「Shear-Induced Microbubble Generation at High Pressures」です。マイクロバブルは、本セッションの大きなテーマのひとつであります。論文は、Journal of Chemical Engineering of JapanのVol.49, No.6, pp.519-525(2016)に掲載されております。受賞講演の対象論文は公開されており、[こちら](#)から資料を閲覧することができます。

一般講演の研究対象は、気泡関連が11件で最も多く、次いで固体粒子が5件、液滴の5件となっています。また、実験が中心の研究が10件、数値シミュレーションが中心の研究が11件でした。数値解析の基礎理論からマイクロウェブや超音波照射下における気泡の挙動やマイクロカプセル生成など分散工学の応用まで、分散系に関する研究テーマの幅広さを感じております。また、化学メーカーが取り組む流体解析の基盤技術に関する講演があり、企業側の参加者にとって有意義なものであったと考えています。次年度も同様なセッションを企画する予定です。粒子・流体プロセス部会会員の皆様の積極的なご参加を期待しています。

(オーガナイザー・岩田 修一)

【SY-53. <粉体プロセスの進展>】

第49回秋季大会で行いましたセッション「粉体プロセスの進展」は、粉体プロセス分科会と流動層分科会が中心となって企画しました。微粒子、粉粒体、エアロゾルを取り扱う粉粒体プロセス技術の重要性は増々高まっていることから、基盤技術を構築するための基礎的研究から実用性に重点を置いた応用研究までを講演対象とし、最近の粉体プロセスの進展をテーマとして研究成果を募りました。

秋季大会初日および2日目の2日間にわたって21件の講演から成るセッションを開催できました。1日目は、エアロゾルや潤滑粉体に関する講演が行われました。2日目は、廃棄物利用、流動層などの研究成果が主に報告されました。本セッションの企画意図に則った粉体プロセスの進展が明確にわかる幅広い研究成果

の発表と活発な討論が繰り広げられました。
なお、座長、オーガナイザー、両分科会役員で厳正に審査した結果、1 件の発表をプレゼンテーション賞候補として本セッションから推薦致しました。最後に、セッションで活発な討論を行って頂いた参加者の皆様、賞審査にご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

(オーガナイザー・加納 純也)

【SY-54. <ミキシングプロセスの見える化 —最先端現象解析技術と応用事例—>】

ミキシング技術分科会主催によるセッション「ミキシングプロセスの見える化 —最先端現象解析技術と応用事例—」は第 49 回秋季大会の 2 日目 (21 日) に行われました。展望講演 2 件、一般講演 16 件の合計 18 件の口頭発表がありました。展望講演では、(株)カネカの神田様には生産技術研究におけるミキシング技術に関する内容、横浜国立大学の西野先生にはフルボリューム PIV 計測による攪拌槽内流れについてご講演いただきました。多くの企業研究者を含む聴講者にご参加いただき活発なご討論を頂きました。また、一般講演のうち学生の発表については、複数名の審査員で厳正に審査をし、当セッションよりプレゼンテーション賞 1 件を推薦しました。最後に、セッションで活発な討論を行って頂いた参加者の皆様、賞審査の皆様、ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

(オーガナイザー・小林 大祐)

【SY-55. <熱物質流体工学の最前線 2017>】

熱物質流体工学の最前線 2017 には 13 件の一般講演がありました。非ニュートン性のテイラー・クエット流、MR 流体の安定性、界面活性剤による流体抵抗の低減、マイクロカプセルスラリーの熱流動特性、硬殻マイクロシリカカプセルの生成特性、スタティックミキサー内の圧力損失の添加剤による制御など、本分科会の特徴が良くあらわれた多岐にわたる分野の発表があり、活発な討論が行われました。また、一般講演のうち学生の発表については、複数名の審査員で厳正に審査をし、当セッションよりプレゼンテーション賞 1 件を推薦しました。最後に、セッションで活発な討論を行って頂いた参加者の皆様、賞審査の皆様、ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

(オーガナイザー・松隈 洋介)

**2017 年度粒子・流体プロセス部会賞
(奨励賞・プレゼンテーション賞)の状況**

化学工学会第 49 回秋季大会における粒子・流体プロセス部会関連企画のセッション「SY-52 気泡・液滴・微粒子分散工学 2017」、「SY-53 粉体プロセスの進展」、「SY-54 ミキシングプロセスの見える化 —最先端現象解析技術と応用事例—」、「SY-55 熱物質流体工学の最前線 2017」における発表と、部会横断型シンポジウムの「ST-21 非線形ダイナミクスの解析と持続可能社会実現への挑戦」、「ST-25 プラズマプロセッシングの新展開」にてエントリーを行った発表を対象として、シンポジウム賞 (奨励賞とプレゼンテーション賞) が選考されました。奨励賞は、審査を希望する 37 歳未満の正会員の発表を対象とし、プレゼンテーション賞は、社会人博士課程在籍者を除く学生会員による全発表を審査対象としました。厳正な審査の結果、下記の方々の受賞が決まりました。

○奨励賞

齋藤 泰洋 (東北大学)
「側方からの気流を受ける液柱の挙動解析」

○プレゼンテーション賞

高畑 和弥 (東京大学)
「転がり抵抗を考慮した DEM 粗視化モデルの開発」
(指導教員: 酒井 幹夫)

庄山 瑞季 (京都大学)
「電場中の誘電性粉体層における凝集粒子の帯電と浮揚」
(指導教員: 松坂 修二)

藤原 真央 (横浜国立大学)
「2 種エレメント構成の静止型混合器内での異粘性流体の混合に対する母液粘度の影響」
(指導教員: 三角 隆太)

穂積 卓朗 (東京大学)
「in situ 架橋ゲル作製時のスタティックミキサー内圧力損失の添加剤による制御」
(指導教員: 伊藤大知)

受賞者の皆様、誠におめでとうございます。
なお、「プレゼンテーション賞」の受賞者には、賞状ならびに副賞としてのフォルダーが贈呈されました。最後になりましたが、審査にご協力を頂き

ました各位に紙面をお借りし、厚く御礼申し上げます。

(担当・岩田 修一)

2017年度粒子・流体プロセス部会 (フロンティア賞)の状況

化学工学論文集 *J. Chem. Eng. Japan* など化学工学に関連する国内外の学術雑誌に掲載された論文のうち、本部会会員が著者となっており、特にフロンティア性の高い優秀な研究論文に対して与えられるのが本賞です。本賞は 2008 年度に創設され、2016 年度は 1 件の論文に授与されており、これまでに合計 9 件の論文に授与されております。

2017 年度は、2016 年 9 月より 2017 年 8 月までに掲載された論文を対象として、9 月 25 日締切で募集を行いました。その結果、2 件の応募があり、各分科会から選出された選考委員で構成される選考委員会で現在審査を行っている状況です。

本ニュースレターが発行される頃には受賞論文が決定されると思います。本賞の受賞論文は、次年会にあわせて行われる部会総会・部会セミナーで表彰式と受賞講演が行われる予定です。

次年度も本賞への皆様からの積極的なご応募をお待ち致しております。

(担当・加納 純也)

2017年度粒子・流体プロセス部会賞 (動画賞)の状況

本年度の動画賞は、化学工学会第 49 回秋季大会(名古屋大学)で行われた下記のシンポジウム

SY-52 気泡・液滴・微粒子分散工学 2017

SY-53 粉体プロセスの進展

SY-54 ミキシングプロセスの見える化—最先端現象解析技術と応用事例—

SY-55 熱物質流体工学の最前線 2017

において発表された内容を対象に作品を募集しました。10 月 11 日に募集が締め切れ、現在、審査委員会が結成されて、厳正な審査が行われているところです。動画賞は、研究、技術、教育の各部門で授与されます。受賞作品は本年 11 月末までに決定し、公表される予定です。授賞式および作品鑑賞会は、化学工学会第 83 回年会にて行われる予定です。また、受賞作品は部会 HP にリンクされる予定ですので、会員の皆様にご覧いただければ幸いです。

(担当・酒井 幹夫)

2017年度粒子・流体プロセス部会賞 (技術賞)の状況

現在、粒子・流体プロセス部会技術賞の募集を行っております。自薦・他薦は問いません。応募締切は 11 月 20 日(金)です。

以下のホームページより PDF ファイルの応募用紙をダウンロードできます。

<http://www2.scej.org/partluid/data/hyosho/Gijutsu/gijutsu.php>

Word 形式の応募用紙をお渡しすることも可能ですので、技術賞担当までお問い合わせください(10 月 21 日付の部会事務局からの再アナウンスのメールにも添付されております)。部会会員の皆様からの多数のご応募をお待ちしております。

(担当・中里 勉)

平成 29 年度部会セミナー

これまで部会セミナーは年会の前日または翌日に、独立した行事として開催してきました。平成 29 年度は前日が旧国立大学の一般入試(後期日程)であることをきっかけとして、これまでも部会幹事会で話題となっておりました年会会期中の部会行事開催を、鈴木部会長より年会実行委員会に打診していただきました。その要望が認められ、本年度の部会セミナーは、部会総会とともに第 83 年会のセッションの一つとして開催する予定です。粒子・流体プロセス部会賞各賞の受賞講演のほか、二件の招待講演を行います。多数の方の参加をお待ちしております。

日時: 平成 30 年 3 月 13 日(火) 13:00~17:40

場所: 会場については年会プログラムでご確認ください。

スケジュール

13:00~13:50 部会総会

13:00~ 受付

13:10~ 総会および部会各賞表彰式

13:50~17:40 部会セミナー(講演会)

13:50~ 開会の挨拶

14:00~ **【奨励賞】**受賞者講演

側方からの気流を受ける液柱の挙動解析

東北大学大学院工学研究科 齋藤 泰洋 氏

14:30~ **【フロンティア賞】**受賞者講演

微粉炭を対象とした揮発分放出と不均一反応の半並発反応モデルの開発

東北大学大学院工学研究科化学工学専攻

赤尾津 翔大 氏

東北大学 谷本惇一氏、相馬達哉氏、齋藤泰洋氏、松下洋介氏、青木秀之氏、JFE スチール(株) 村尾明紀 氏

15:00～ 【動画賞(研究部門)】受賞者講演および動画上映

部分混和性系における界面流体力学
東京農工大学工学府応用化学専攻

システム化学工学専修 鈴木 龍汰 氏
東京農工大学 長津雄一郎氏、インド工科大学
マノランジャン ミシュラ氏、大阪大学 伴貴彦氏

15:20～ 休憩

15:30～ 【招待講演】

界面を含む流れの計測

神戸大学大学院工学研究科 細川 茂雄 氏

16:30～ 【招待講演】

Particle scale modelling of particle-fluid flows: an overview of the SIMPAS theoretical work

Monash Univ. Prof Aibing Yu

17:30～ 閉会の挨拶

18:00～20:00 交流会

参加費：セミナー：無料 交流会：2000円

申込方法：氏名、所属、連絡先(所在地および Tel, Fax, E-mail など)、交流会参加の有無を明記の上、E-mail にて下記申込先までお申し込み下さい。

申込締切：2018年2月28日(水)

申込先(問合せ先)：粒子・流体プロセス部会
部会セミナー担当 庄野 厚

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3

東京理科大学工学部工業化学科

E-mail: ashono@ci.kagu.tus.ac.jp

(担当:庄野 厚、後藤 邦彰)

国際会議 IWPI

第6回の International Workshop on Process Intensification (IWPI)は、2018年11月7-8日に国立台湾大学で開催されます。2018年早々に、ホームページが開設され、Call for Paper が出される予定です。部会会員の皆様の多数のご参加をお待ちしております。

Welcome to 

6th International Workshop on Process Intensification



(国際会議担当・大村 直人)

若手女性育成 PJ

本PJは、若手研究者および技術者の育成を図るため、企業で活躍中の若手・女性技術者と直接交流することによって、男女を問わず卒業後のキャリアパスに対するイメージアップを図ることを目的としており、今年度も企業の若手・女性研究者相互の対話を通じて、研究の活性化と育成を支援する工場見学/交流会(関西支部共催)を下記の通り開催します。

日時：平成29年12月13日(水) 13:00～

会場：プライミクス株式会社

本社/工場 (兵庫県淡路市)

13:00～ 受付開始

13:30～ 講演『”続・井の中のさかな、学外に出る～どろどろ・さらさらを科学するレオロジー工学～』(山口大学) 貝出絢先生

14:15～ 講演『学習する組織を目指して～経営企画部の活動～』

(プライミクス㈱取締役経営企画部長)永井康子氏

15:00～ 企業の若手・女性技術者からの

話題提供 3件

16:00～ 工場見学会

17:00～ 懇親会

博士及び修士課程・学部学生や若手PD、また企業の若手特に女性研究者・技術者の方々には、積極的なご参加をお願い申し上げます。

(若手女性育成プロジェクト担当:今中照雄)

分科会からのお知らせ

気泡・液滴・微粒子分散工学分科会

気泡・液滴・微粒子分散工学分科会では、例年どおり年会最終日に「第18回気液固分散工学サロ」を開催します。詳細は、下記をご覧ください。

主催:粒子・流体プロセス部会 気泡・液滴・微粒子分散工学分科会
日時:2018年3月15日(木)夕方(年会のセッション、分科会総会終了後)
*本サロン講演終了後、交流会を開催予定です。

会場:関西大学 千里山キャンパス (分科会の講演会場と同会場を予定)

参加費: 一般 5,000 円程度、学生 3,000 円程度を予定

講演者:大阪大学 大学院基礎工学研究科 機能創成専攻 渡村 友昭 氏

講演題目:コップの中に現れる飲料の対流について

講演概要:我々に最も馴染みのある気液二相流は、ビールや炭酸水などの飲料であろう。多くの飲料に含まれる気泡は浮力によって浮上する。しかし、「ギネスビール」という黒ビールが含む気泡は下降し、気泡の数密度分布が出現する。コップの内部に現れる特徴的な対流構造と粗密分布構造の発現メカニズムを紹介する。

申込:参加ご希望の方は

- (1)氏名
- (2)勤務先・所属
- (3)連絡先(E-mail)
- (4)交流会出席の有無

を明記の上、下記あてにE-mailにて2017年3月2日(金)までにお申し込みください。

千葉大学・山田真澄(気泡・液滴・微粒子分散工学分科会 企画幹事)

E-mail: m-yamada@faculty.chiba-u.jp

以上、よろしく願いいたします。

(分科会代表・岩田 修一)

流動層分科会

第23回流動化・粒子プロセッシングシンポジウム(FB23)が静岡大学の立元先生を実行委員長とし、2017年12月7日(木)~8日(金)に静岡県浜松市のアクティシティ浜松研修交流センターにて行われました。

<https://sites.google.com/view/fb23>

96名(速報値)の参加者を集め、2件の招待講演、16件の口答発表、30件のポスター発表が行われ、活発な討論が繰り広げられました。初日の懇親会では優秀ポスター発表賞の発表と授賞式も行われました。

流動層や粒子プロセッシングという限られた分野の発表にその専門家が集っての討論と情報交換であるため、例年、大変濃厚な内容となっております。

来年は東京高専の石井先生を実行委員長として、東京・多摩地区で開催が予定されています。

(分科会代表・桑木 賢也)

熱物質流体工学分科会

熱物質流体工学分科会 2017年度分科会行事のご報告とご案内をさせていただきます。例年行っております熱物質流体工学セミナー2017を化学工学会秋季大会前日の9月19日(火)に、名古屋大学東山キャンパス工学研究科中央棟ES025室にて開催いたしました。本年度は、九州大学・井上元先生より「電気化学分野における物質輸送現象とその技術動向」と題して、また、山形大学・木俣光正先生より「架橋を生じる粉体の供給シミュレーション」と題したご講演をいただきました。お二方とも微小スケールのシミュレーションの最新の理論と応用に関連したお話で、非常に興味深く、また、参加者の皆様の今後の研究のヒントとなったものと思われまます。参加者は講師の先生を含めて20名で、講演会終了後に、交流会を開催しました。また、本号にて既にご報告した通り、大会初日に名古屋大学にて熱物質流体工学の最前線2017のセッションを開催し13件の講演を頂きました。今後の予定として、関西大学千里山キャンパスにて2018年3月13日~15日の日程で開催される化学工学会第83年会の会期中に分科会総会を開催する予定です。



熱物質流体工学セミナー2017の様子

(分科会代表・松隈 洋介)

粉体プロセス分科会

9月20日－22日に名古屋大学で開催される第49回秋季大会にて「粉体プロセスの進展」をテーマとした部会シンポジウムを開催いたしました。

11月13日－15日にホテルグランドパレス塩釜で第55回粉体に関する討論会が開催され、本分科会も協賛いたしました。特別講演3件、一般講演37件で、参加者は72名でした。

その他粉体材料、粉体プロセスに関するシンポジウムに積極的に共催・協賛していきたいと考えております。共催・協賛の依頼は、分科会代表の加納(kano*tohoku.ac.jp)までお寄せください。(メール送信の際は*を@に置き換えて下さい。)

粉体関連行事情報:

2018年4月22－26日 WCPT、フロリダ、アメリカ
2018年7月9日－12日 ICCCI2018、岡山県倉敷市

(分科会代表・加納 純也)

ミキシング技術分科会

ミキシング技術分科会では第22回九州・中国地区ミキシング技術サロンを1月に開催する予定です。今回は、脱揮・脱泡をキーワードに、大学と企業から講師をお招きし、ご講演いただきます。

第22回九州・中国地区ミキシング技術サロン
「脱揮・脱泡を伴う化学プロセス」

日時:平成30年1月19日(金)13:20～16:50
場所:九州大学グローバルイノベーションセンター
(筑紫キャンパス)2F 大会議室

<http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/campus/chikushi/>
講演会(13:20～16:50)

「ポリマーの脱揮・脱水工程における押出機の適用」

(株)日本製鋼所 木村 嘉隆 氏

「圧力振動場を用いた高粘性流体からの脱泡」

名古屋工業大学 岩田 修一 氏

「真空攪拌装置における脱泡工程の実例」

プライミクス(株) 春藤 晃人 氏

技術交流会(於学内施設 17:00～18:30)

●参加費 サロン:無料 技術交流会:4,000円

●申し込み方法

氏名, 所属, 連絡先(Tel, E-mail), 懇親会参加の有無を明記の上, E-mail にて下記までお申し込みください。

mixing2017summer@gmail.com

問い合わせ先:

九州大学大学院工学研究院 梶原稔尚

kajiwara@chem-eng.kyushu-u.ac.jp

TEL: 092-802-2746

●参加申込締切:平成30年12月28日(木)

(分科会代表・庄野 厚)

部会への入会方法

■化学工学会の個人会員の方は、化学工学会HP(<http://www.scej.org/>)の「各種申込>部会入会」より、お申し込み下さい。eメールなどの変更も、化学工学会HPで行えます。

■化学工学会の会員(法人・個人)でない法人あるいは個人の方で、本部会の法人特別会員、特別個人会員入会をご希望の方は、下記の粒子・流体プロセス部会事務局までご連絡下さい。

■分科会への入退会は、部会事務局へご連絡下さい。

■本部会の法人特別会員、特別個人会員の方で、eメール等の変更は事務局までお知らせ下さい。

■詳しくは

<http://www2.scej.org/partfluid/nyukai.php> をご覧ください。

Phone/Fax:(078)803-6657

E-mail:scej.fpp+membership@gmail.com

(事務局・菰田悦之、日出間 りり)

部会ニュースレター編集後記

部会長をはじめとして原稿執筆いただいた先生方に感謝申し上げます。ニュースレター発行が遅くなり大変申し訳ありませんでした。今後とも部会の活動へのご協力をよろしくお願い致します

(ニュースレター担当・松隈洋介・瀬戸章文)